

Interview

枚方市
施設整備室
課長代理
宮木 一也さん



誰もが親しみやすい、行ってみたい施設に

枚方市駅に近く交通に便利な立地の枚方市総合文化芸術センターは、大ホール・小ホールでのコンサートや演劇の鑑賞はもちろん、イベントホールや施設前広場、美術ギャラリーでの多彩な催しを通して、本格的な文化芸術を身近に触れられる市の文化芸術の施設拠点になります。施工者の皆さんと力を合わせて、誰もが親しみやすい、行ってみたいと思えるような魅力ある施設を造り上げていきます。完成後は、幅広い世代が集い、枚方市に住んでよかった、この街に住みたいと感じていただける憩いと賑わいのスポットになることを目指しています。



1.大ホール舞台正面にトラス構造の梁を架ける作業。下部で別作業できるように特殊な形状の支保工を構築した。2.3.大ホール内の仮設構造物のBIMと鉄骨部分だけのBIM。4.作業に合わせて様々なBIMを作成し、発注者・設計者・協力会社と情報を共有して作業の効率化を図っている。5.ホール建築をイメージした音符のデザインで建築の仕事を紹介している外周の仮囲い。



前田建設工業株式会社
枚方文化芸術センター
作業所
所長
西條 弘之さん

技術者として誇りに思える仕事

大規模ホールの建築は、その音響性能を実現させるための施工方法が随所に要求された空間建築であり、他では経験できない貴重なチャレンジが続きます。枚方市の新たなランドマークとなる建物に参画できていること、技術者として誇りに思える仕事に携われることに喜びを感じながら、協力会社の皆さんと心を合わせて難易度の高い工事を乗り越えてきました。完成後のイベントに足を運ぶことを楽しみにして、2021年の竣工を無事迎えるために最後まで全力を尽くします。

大規模空間を構築する難易度の高い工事が続く

枚方市総合文化芸術センターの建築は、1500席クラスの大空間となる大ホールや遮音性に優れた構造の小ホールを構築し、走行式音響反射板、オーケストラピット、舞台セリなど特殊な設備が設置され、通常の建築物では経験しない難易度の高い工事が続く。特に、建物の主要構造部を造る工事で難関だったのは、大ホールの舞台上部(4階〜5階)に架かるトラス構造の梁を設置する作業だった。直下でオーケストラピットの作業を行いつつ大空間を支える重要な構造物となる梁を設置するため、事前にコンピューターでシミュレーションしながら慎重に作業が進められた。

3次元モデルで見える化し作業手順や工程を共有する

難易度の高い工事を支えているのが「施工BIM」だ。BIMは、コンピューター上に作成した3次元の建物のデジタルモデルで、特に施工段階で活用するものを施工BIMと呼んでいる。本工事では鉄骨や鉄筋の配置など構造に関連するもの、配管など設備との調整し、工事の前に作業の課題を抽出、検討している。

「3次元のモデルで、見える化する」として、作業員の皆さんと作業手順や工程を情報共有でき、効率化が図れます。また、若手社員の指導にも効果があります。上げていきます」(前田建設工業 西條弘之 所長)。



枚方市駅(上)の北側、徒歩5分のところで建築工事が進められている枚方市総合文化芸術センター。(2020年9月撮影)

LAND MARK

枚方市総合文化芸術センター

文化・芸術の発信拠点

枚方市のまちの魅力を高める

大阪・枚方市駅の周辺は国の「都市再生緊急整備地域」に指定されるなど、官民が一体となった整備が進められている。枚方市総合文化芸術センターはその目玉となる事業で、オーケストラピットも備えた1468席の大ホールと325席の小ホール、美術ギャラリー、イベントホールなどを備えた文化芸術拠点となる。

駅から徒歩5分という恵まれた立地で、音響効果に優れたレンガを採用した重厚感のある内外装、大規模ホールとしては全国初となる放射空調システムの導入など、北河内地域の中核都市である枚方市に相応しいハイスペックのホール機能は、枚方市民のみならず沿線の他市からも注目を集め、完成後はまちの賑わいと魅力アップに大きな効果が期待されている。



◎建築概要
【工事名称】(仮称)枚方市総合文化芸術センター 建設工事(建築工事)
【発注者】枚方市(都市整備部施設整備室)
【設計・工事監理】株式会社日建設計
【施工者】前田建設工業株式会社
【工事期間】着工2018年10月10日～竣工2021年春

枚方市総合文化芸術センターの特徴的な内装

1.2.内外装に使われるレンガは1個8〜10kgで計16万個を手積み施工する。3.静かな鑑賞環境と省エネを実現するため、客席背面や天井などに放射空調システムを採り入れた放射パネルを設置。

